



大日寺跡の推定寺域と発掘調査地

私たち郷土川島が大日寺跡

一二〇〇年前に文化の花咲いた縁(えにし)

阿波川島駅の西側の民有地から、県内最古級の寺院「大日寺」の金堂とみられる遺構が発掘され、現在も調査が進んでいます。

「大日寺」については「川島町史」でも記述されています。以下、川島町史より要約して抜粋
 奈良時代仏教に深く帰依した聖武天皇は国ごとに国分僧寺、国分尼寺の建立を命じ、仏教は、国家の手厚い保護を受けて国家仏教の域にまで達した。仏教の隆昌は民間でもしかり、国分僧寺、国分尼寺など、国家が建立する官寺のみでなく、都の有力な氏族、または地方の大豪族らで寺院の建立をするもの多く、一般人もこうした寺院に信仰をはじめたのである。

阿波における国分僧寺、国分尼寺の建立は知られているが、私的に建立された寺院もかなりあったと思われる。私たち郷土川

島に、その寺院があつたことは興味深く、その頃文化の花咲いたことを思わせる縁となる。以上、川島町史
 寺院建立は当時の豪族のステイタスで、天にそびえる塔を造る事で権勢も誇示していたと考えられ、川島町史には「旧川島城本丸跡の石塁に積み込まれている心礎石は、大日寺の塔のものである」との記述があります。
 古代の寺院は、法要、学習の場、支配者のシンボリック役割、軍事的要塞、集会所などの役割を担っていたと考えられています。
 大日寺の位置は、川島駅西側の一町四方だったと推定されます。奈良時代、私たち郷土川島はこの近辺の中心地として栄え、文化の花咲いた地域だったことが、今回の発掘調査でより確かななつたと言えます。



川島公園の忠魂碑の下にある奥にある半月板の石が心礎石

台風で鴨島運動場が河原に

吉野川市

維持管理費を考えれば移転も

吉野川の中央橋上流にある鴨島運動場は吉野川河川敷にあるため、吉野川の増水により何度もグラウンドの土が流されていますが、8月の台風12号と11号の大雨でもグラウンドの土が流されました。

もともと、このグラウンドは徳島県が管理していましたが、平成18年に県から吉野川市に移管され現在に至っています。

しかしその後度重なる吉野川の増水でグラウンドが浸水し、これまでの補修工事費は二三二二万六千円使っている上に、吉野川の増水ごとにサッカーゴールや野球のネットを移動させる手数料が二二七万七千円かかっています。

市は「市民のスポーツの機会を確保する上で運動場は必要と考えますが、維持管理費用を考えると他の場所で確保することも課題とするべき」と

の考えを議会で示しました。鴨島運動場の修復工事は今秋の台風シーズンが終わってから行う考えです。

また、鴨島運動場に代わる運動場の予定地として、川島町のゴミ焼却場跡地と上桜温泉跡地が議会の議論で浮上しています。

しかし、上桜温泉跡地は市の所有地ですが、ゴミ焼却場跡地は阿波市や板野町・上板町と吉野川市で構成する中央広域環境施設組合の所有地なので、運動場建設には、この組合での議論も必要となります。



土が流され河原になった鴨島運動場